

し、冷後、水を加えてもとの容積とし、ろ過する。ろ液は無色で、中性である。

(2) 塩化物 (1) のろ液 4.0 mL をネスラー管にとり、希硝酸 6 mL 及び水を加えて 50 mL とする。これを検液とし、試験を行う。比較液には 0.01 mol/L 塩酸 0.80 mL を加える (0.142 % 以下)。

(3) 硫酸塩 (1) のろ液 5 mL をネスラー管にとり、希塩酸 1 mL 及び水を加えて 50 mL とする。これを検液とし、試験を行う。比較液には 0.005 mol/L 硫酸 1.0 mL を加える (0.192 % 以下)。

(4) 硫化物 本品 0.5 g に希塩酸 15 mL 及び水 10 mL を加えて煮沸するとき、5 分間以内に発生するガスは酢酸鉛 (II) 紙を褐変しない。

(5) シアン化合物 本品 5 g を蒸留フラスコに入れ、L-酒石酸 2 g 及び水 50 mL を加え、蒸留装置に連結する。受器には水酸化ナトリウム試液 2 mL 及び水 10 mL を入れ、冷却器の下端をこの液に浸し、受器を水冷し、留液 25 mL を得るまで蒸留し、これに水を加えて 50 mL とし、この液 25 mL に硫酸鉄 (II) 七水和物溶液 (1 → 20) 1 mL を加え、ほとんど沸騰するまで加熱し、冷後、ろ過し、ろ液に塩酸 1 mL 及び希塩化鉄 (III) 試液 0.5 mL を加えるとき、青色を呈しない。

(6) 酸可溶物 本品約 1 g を精密に量り、水 20 mL 及び塩酸 5 mL を加えて 5 分間煮沸した後、ろ過し、残留物を熱湯 10 mL で洗い、ろ液及び洗液を合わせ、硫酸 5 滴を加えて蒸発した後、強熱するとき、残留物は 3.0 % 以下である。

(7) 重金属 本品 0.5 g をとり、第 2 法により操作し、試験を行う。比較液には鉛標準液 2.5 mL を加える (50 ppm 以下)。

(8) 亜鉛 本品 0.5 g を強熱して灰化し、残留物に希硝酸 5 mL を加え、穏やかに 5 分間煮沸してろ過し、水 10 mL で洗い、ろ液及び洗液を合わせ、アンモニア試液 3 mL を加えてろ過し、水で洗いながら洗液をろ液に合わせて 25 mL とし、この液に硫化ナトリウム試液 1 滴を加え、3 分間放置するとき、液は混濁しない。

(9) ヒ素 本品 1.0 g をとり、第 3 法により検液を調製し、装置 B を用いる方法により試験を行う (2 ppm 以下)。

乾燥減量 15.0 % 以下 (1 g, 105 °C, 4 時間)。

強熱残分 4.0 % 以下 (1 g)。

吸着力

(1) 本品を乾燥し、その 1.0 g をとり、硫酸キニーネ 120 mg を水 100 mL に溶かした液を加え、5 分間激しく振り混ぜ、直ちにろ過し、初めのろ液 20 mL を除き、次のろ液 10 mL をとり、ヨウ素試液 5 滴を加えるとき、液は混濁しない。

(2) メチレンブルー 250 mg を正確に量り、水に溶かし正確に 250 mL とし、この液 50 mL ずつを 2 個の共栓フラスコ中に正確に量り、一方のフラスコに、本品を乾燥し、その 250 mg を正確に量って加え、5 分間激しく振り混ぜる。各フラスコの内容物をそれぞれ、ろ過し、初めのろ液 20 mL を除き、次のろ液 25 mL を正確に量り、250 mL のメスフラスコに入れる。各メスフラスコに酢酸ナトリウム

三水和物溶液 (1 → 10) 50 mL を加え、揺り動かしながら正確に 0.05 mol/L ヨウ素液 35 mL を加え、しばしば激しく振り混ぜて 50 分間放置した後、水を加えてそれぞれ 250 mL とする。10 分間放置した後、20 °C 以下でろ過し、初めのろ液 30 mL を除き、次のろ液 100 mL ずつを正確に量り、過量のヨウ素を 0.1 mol/L チオ硫酸ナトリウム液で滴定する。各液の滴定に要した 0.1 mol/L チオ硫酸ナトリウム液の量の差は 1.2 mL 以上である。

貯法 容器 密閉容器。

ヤシ油

Coconut Oil

OLEUM COCOIS

椰子油

本品はココヤシ *Cocos nucifera* Linné (*Palmae*) の種子から得た脂肪油である。

性状 本品は白色～淡黄色の塊又は無色～淡黄色澄明の油で、わずかに特異なおいがあり、味は緩和である。

本品はジエチルエーテル又は石油エーテルに溶けやすく、水にほとんど溶けない。

本品は 15 °C 以下で凝固し、堅くてもろい塊となる。

融点: 20 ~ 28 °C (第 2 法)

酸価 0.2 以下。

けん化価 246 ~ 264

不けん化物 1.0 % 以下。

ヨウ素価 7 ~ 11

貯法 容器 気密容器。

ユウタン

Bear Bile

FEL URSI

熊胆

本品は *Ursus arctos* Linné 又はその他近縁動物 (*Ursidae*) の胆汁を乾燥したものである。

性状 本品は不定形の小塊からなり、外面は黄褐色～暗黄褐色で、破碎しやすく、破碎面はガラスよりのつやがあり、湿潤していない。

本品は胆のうちに入っているが、ときには取り出されている。胆のうは繊維性の強じんな膜質からなり、長さ 9 ~ 15 cm、幅 7 ~ 9 cm、外面は暗褐色を呈し、半透明である。

本品は弱い特異なおいがあり、味は極めて苦い。

確認試験 本品の粉末 0.3 g に石油エーテル 50 mL を加え、還流冷却器を付けて水浴上で約 1 時間加温した後、ろ過する。残留物 20 mg に塩酸 0.5 mL、無水酢酸 2 mL 及びクロロホルム 2 mL を加えて 2 分間激しく振り混ぜた後、ろ過する。ろ液に硫酸 0.5 mL を穏やかに加えるとき、境界面は赤色を呈し、次に帯赤褐色となり、上層の液はやや赤色を帯びる。また、この液を穏やかに振り混ぜて放置するとき、液は帯赤褐色となり、この色は持続する。